

# 第1回 国道105号 大覚野峠地区 防災対策技術検討会の概要

1) 日時： 令和3年3月18日(木)  
13時00分～15時00分

2) 場所： 秋田河川国道事務所 会議室  
(県外委員はweb参加)

3) 出席者(委員、◎は座長)

◎西村 和夫 東京都立大学 理事・学長特任補佐  
プレミアム・カレッジ長  
オープンユニバーシティ長

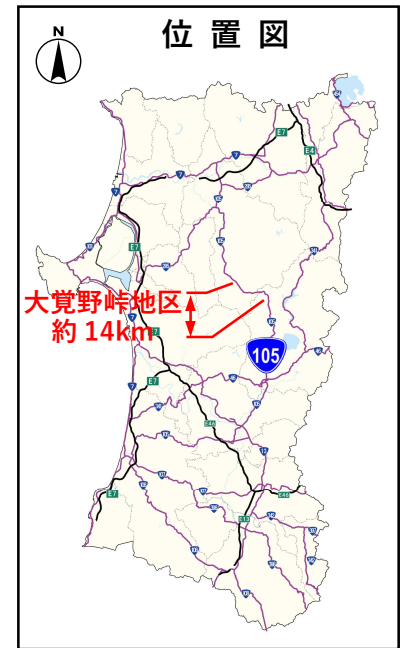
渡辺 寧 秋田大学 国際資源学 研究科教授

井良沢 道也 岩手大学 農学部 森林科学科教授

佐藤 秀治 秋田県 建設部 次長

吉沢 仁 国土交通省 東北地方整備局 秋田河川国道事務所長

高橋 秀典 国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所長



4) 議事

- (1) 整備の必要性
- (2) 技術的課題の抽出
- (3) 地質調査の内容・結果
- (4) 技術的課題の対応(案)
- (5) 詳細なルート・構造の検討及び結果

5) 議事内容(主な意見等)

- 大覚野峠地区には防災上の課題が多く、整備の必要性があることを確認した。
- 直轄調査において、技術的課題としては①断層・破砕帯、②低強度・膨張性地山、③帯水層、④地すべり近接の4項目を選定したことを報告した。
- 直轄調査の内容を報告し、技術的課題を①湧水を伴う断層破砕帯をトンネルで通過すること、②低強度・膨張性地山をトンネルで通過することの2項目とするについて了承を得た。
- 技術的課題の対応(案)については、委員より以下のような助言をいただいた。
  - ・断層・破砕帯や今回の直轄調査で確認されなかった帯水層の課題について、地質分布の不確実性を踏まえ、前方探査で事前に把握して施工すること。
  - ・地すべりに近接するトンネル坑口部や明かり部は地形を詳細に把握すること。
- 詳細なルート・構造について、過年度までの秋田県の検討内容を照査し、防災上のリスクを踏まえ、崩積土主体の不安定斜面を避けたルートの見直し、現道並行区間での防災上の課題によるルートの見直し結果について了承を得た。